

26:13 怠け者は「道に獅子がいる。広場に雄獅子がいる」と言う。

26:14 戸はちょうつがいので向きを変える。怠け者は寝床の上で。

26:15 怠け者は皿に手を伸ばしても、その手を口に持って行くのを面倒がる。

26:16 怠け者は、良識ある答えをする七人の者よりも、自分を知恵のある者と思う。

26:17 自分に関係のない争いにいきり立つ者は、通りすがりの犬の耳をつかむ者のようだ。

26:18 気がふれた者は、燃え木を死の矢として投げるが、

26:19 隣人をだましながら、「ただ、戯れただけではないか」と言う者も、それと同じ。

26:20 薪がなければ火が消えるように、陰口をたたく者がいなければ争いはやむ。

26:21 炭火に炭を、火に薪をくべるように、口論好きな人は争いをかき立てる。

26:22 陰口をたたく者のことばは、おいしい食べ物よう。腹の奥に下って行く。

26:23 燃える唇も、心が悪いなら、質の悪い銀を塗った土の器。

26:24 憎んでいる者は、唇で身を装うが、心のうちに欺きを潜めている。

26:25 声を和らげて語りかけてきても、信じるな。その心には七つの忌み嫌われるものがある。

26:26 憎しみはうまくごまかし隠せても、彼の悪は集いの中で現れる。

26:27 穴を掘る者は、自分がその穴に陥り、石を転がす者は、自分の上にそれを転がす。

26:28 偽りの舌は、虐げられている者を憎み、

滑らかな口は滅びを招く。

22章にも「怠け者」のことが書かれていますが、ここではさらに多く述べられています。13節のような言い訳は無責任と同等です。自分でやらなかったことを説明して、その理由になっているつもりでも、人からは根拠のない言い訳かもしれません。

15節のように、せつかく途中までした仕事を無駄にしないように、気をつけましょう。

「争いにいきり立つ」とあります。感情的な反応で関わりを持ってしまわないように。もしもトラブルの調整役になろうとするなら、よく主に祈って、主のみこころだけを行いましょう。それには献身が必要で、犠牲を覚悟しなくてはなりません。それができないようなら、良い格好をすることは控えましょう。

「集いの中で」とあります。特に主の集会では聖霊が働かれます。自分を良く見せかけても、明かにされ、人々は見抜きます。完璧な者はいませんから、正直でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

